

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	かじがや障害者デイ・サービスセンター	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 ・代表者名 長谷川 忠司 ・住所 川崎市高津区久地3-13-1	評価者	障害計画課長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課

2. 事業実績

利用実績	生活介護（定員25名）契約者数 24名（平成28年3月31日現在）、延利用日数 5,304日																																										
収支実績	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">収入</th> <th colspan="2">支出</th> <th rowspan="2">収支差額</th> </tr> <tr> <td>福祉事業活動</td> <td>121,622千円</td> <td>福祉事業活動</td> <td>113,501千円</td> <td>0千円</td> </tr> <tr> <td>給付費</td> <td>83,290千円</td> <td>人件費</td> <td>68,211千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>川崎市独自加算</td> <td>31,818千円</td> <td>事務費</td> <td>18,332千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料</td> <td>90千円</td> <td>事業費</td> <td>8,029千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>0千円</td> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>18,929千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6,424千円</td> <td>施設整備等</td> <td>8,120千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>121,622千円</td> <td>合計</td> <td>121,622千円</td> <td></td> </tr> </table> <p>※端数処理のため合計が一致しないことがあります。</p>	収入		支出		収支差額	福祉事業活動	121,622千円	福祉事業活動	113,501千円	0千円	給付費	83,290千円	人件費	68,211千円		川崎市独自加算	31,818千円	事務費	18,332千円		指定管理委託料	90千円	事業費	8,029千円		拠点区分間繰入金	0千円	拠点区分間繰入金	18,929千円		その他	6,424千円	施設整備等	8,120千円		合計	121,622千円	合計	121,622千円			
収入		支出		収支差額																																							
福祉事業活動	121,622千円	福祉事業活動	113,501千円		0千円																																						
給付費	83,290千円	人件費	68,211千円																																								
川崎市独自加算	31,818千円	事務費	18,332千円																																								
指定管理委託料	90千円	事業費	8,029千円																																								
拠点区分間繰入金	0千円	拠点区分間繰入金	18,929千円																																								
その他	6,424千円	施設整備等	8,120千円																																								
合計	121,622千円	合計	121,622千円																																								
サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンモックやスノーブレン等の新しいプログラムを利用者の安全と心地よさを考慮した独自の調整の基に提供し、利用者・家族から好評を得ているとともに先駆的な取組を行う施設として見学も多い。 ・医療的ケアの提供体制を整えている。また、身体機能の維持に関する取組として「口から食べること」を重視し、食べるときの姿勢を利用者ごとに検討・調整する等、細部にわたる支援により信頼を得ている。 																																										

3. 評価（評価段階:5～1,標準:3,加点割合:5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	5	10
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
(評価の理由) ・医師・PT・OT等の専門職と協力して写真やイラストを取り入れた支援マニュアルを個別に作成し、どの支援員であっても確実に変わらない支援が提供できるよう整備して取り組んだことにより、利用者の快適さと安心感につながっている。 ・加齢に伴う身体機能の低下と高齢家族の介護負担が深刻化する中、一人一人の健康と機能の観察を丁寧に行い専門的視点で迅速な対応を継続した結果、不安の解消とともにサービスに対する高い評価を得られ、80%以上の通所率を維持し続けている。 ・「虐待防止チェックリスト」によるセルフチェックの定期的な実施に加え、結果を基に研修を行って現場支援の見直しを図った。					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	4	4
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
(評価の理由) ・支出については、老朽化施設の修繕を的確に行う中でも、消耗品等の節約と節減に努めることにより、予算内で実行を行った。 ・収入については、利用実績の維持と安定収入に努め、収入見込額を上回る収入があり、収支0千円だった。 ・法人の経理規程に則り適正に金銭管理を行った。内部監査を受けたが、不備や指摘事項はなかった。					
サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4
		利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
(評価の理由) ・利用者にとって心地よくゆとりのある1日の流れを提供するため、個別プログラムを重視しているが、1対1や集団ではなく2、3人のグループならば緊張せず楽しく過ごせるという利用者もいることから、新たにグループプログラムを開始し、特性を考慮した柔軟な支援を展開している。 ・土曜日の開所や時間延長サービスの要望に対しては、在宅サービスの導入を提案し、多様な過ごし方を組み合わせて暮らしていくことを促すとともに、支援施設側の負担の分散化を図っている。それと併せて、健康で安全な在宅生活の継続と介護負担軽減のため、必要に応じて訪問介護事業所等に食事・介助・福祉用具の使用法等の指導を展開している。 ・施設・法人それぞれの満足度調査や利用者会・家族会等、意見収集の多様な方法を備えている。					

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	4	4
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	4	4
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3	
(評価の理由) <ul style="list-style-type: none"> ・祝日運営を継続しており、利用者・家族から喜ばれている。 ・職員それぞれの立場において必要な研修が受講できるように調整し、また権利擁護研修については、全職員に伝達・周知できる機会を作り、現場全体の意識改善とスキルアップを図った。 ・重度の身体・知的障害者の身に起きる危険を自覚し取り組んだ結果、医療受診を要する事故が0件であった。 ・地震・土砂崩れを想定した避難訓練をはじめ実施し、上階の老人いこいの家との間で被害か所に応じて必要な応援をし合う仕組みを検討した。また、家族との緊急連絡訓練で、可能なところからメールを導入した。 ・独自の虐待防止マニュアルの整備に加え、セルフチェックリストの結果に基づいて研修し、支援の見直しを行っている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
(評価の理由) <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の保守管理については、総合管理委託によって計画的に実施されている。また、施設の老朽化と利用者の重度化が進む中、計画に基づいて着実に修繕を実施している。 ・利用者の活動場所は、毎日の清掃と整理整頓を行い安全で衛生的な環境を維持している。 					

4. 総合評価

評価点合計	76	評価ランク	B
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準: C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・在宅生活を含めた利用者の生活全般を意識した支援を行うことにより、利用者アンケートでは高い評価を得ており、利用者・家族それぞれから生活のよりどころとして信頼されていることが見てとれる。
・地域とのつながりについては、毎月発行する「かじがや通信」の掲示を近隣商店に依頼したり、花壇の整備等に取り組んでいる。ボランティアについては「できることをお願いし、無理をさせない」「活動内容を明確にする」という方針により、「花壇の水やり」「利用者の入浴後、髪を乾かす」といったちょっとしたことから関わっていただき、地域とのつながりを作り上げている点が高く評価できる。
・利用者への個別支援・家族等への支援・生活全般の支援と、多面的・重層的な取組が行われている。引き続き柔軟な発想と姿勢をもって利用者の希望とニーズに基づいた取組を継続すること。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

--